

## 論文審査の結果の要旨および担当者


報告番号	※	乙	第	号
------	---	---	---	---


氏 名 小林真一郎


論 文 題 目


Increased von Willebrand Factor to ADAMTS13  
Ratio as a Predictor of Thrombotic Complications  
Following a Major Hepatectomy

(von Willebrand Factor / ADAMTS13 の上昇は、  
大量肝切除後の血栓性合併症を予測する)  
論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授  
委 員 小 寺 泰 弘 

委 員 名古屋大学教授  
松 田 直 之 

委 員 名古屋大学教授  
西 脇 公 俊 

指 導 教 授 名古屋大学教授  
柳 野 正 人 

## 論文審査の結果の要旨

大量肝切除に伴い ADAMTS13、von Willebrand factor をはじめとする凝固線溶関連因子の変動と血栓性合併症について検討した。葉切除以上の肝切除群 50 例とコントロール群の膵頭十二指腸切除群 23 例で、開腹前、標本摘出時、手術終了時、術後 1,2,4,7,14 日目の 8 ポイントで凝固線溶関連因子を採血した。von Willebrand factor /ADAMTS13 の上昇は膵頭十二指腸切除群に比較して肝切除群で有意に高く、この差は術後 14 日目まで継続した。血栓性合併症を肝切除群に 3 例認めたが膵頭十二指腸切除群には認めなかった。血栓性合併症を発症した 3 例の von Willebrand factor /ADAMTS13 は異常高値を示していた。von Willebrand factor /ADAMTS13 上昇には術中出血量より残肝体積が有意に相関していた。von Willebrand factor /ADAMTS13 の異常な高値は潜在的な血栓性合併症のリスクを示すかもしれない。

1. ADAMTS13 の周術期変動に出血量は大きな影響を与えるのではと本研究の前に予測していたので肝切除群と出血量がほぼ同等である膵頭十二指腸切除群をコントロール群にした。
2. VWF/ADAMTS13 と肝阻血時間間に有意な相関関係は認めなかった。
3. VWF/ADAMTS13 が上昇する肝切除以外の手術は検索するかぎり報告はなかった。肝切除後の VWF/ADAMTS13 回復には 14 日以上かかる。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	小林真一郎
試験担当者	主査 小寺泰弘	指導教授 柳野正人	松田直之	西脇公俊
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本研究において肝切除に対して臍頭十二指腸切除をコントロール群にした理由。</li> <li>2. VWF/ADAMTS13と肝切除時の阻血時間との関係はどうか。</li> <li>3. VWF/ADAMTS13が上昇する肝切除以外の手術はあるか。肝切除後のVWF/ADAMTS13回復にはどれくらいの期間かかるのか。</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、腫瘍外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	小林真一郎
学 力 審 査 担 当 者	主 査 小寺泰弘	指導教授 柳野正人	松田直之	西脇公俊
<p>(学力審査の結果の要旨)</p> <p>名古屋大学学位規程第10条第3項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。</p>				